

拙稿執筆時点でも自身のHPに「経済再生担当大臣、社会保障・税一体改革担当大臣、マクロ経済運営担当大臣、TPP担当大臣、健康・医療戦略担当大臣」と記載する甘利明衆議院議員が1月28日、経済財政政策特命担当大臣の退任挨拶を内閣府で行いました。「責任の取り方に対し、私なりの瘦せ我慢の美学を通して頂きました」と。

その発言を受けてツイッターを始めとするSNS上では「二枚舌」だと大炎上します。「大臣室で(虎屋の羊羹やまかんと思しき)菓子折りの入った紙袋」を受け取るのを固辞する「瘦せ我慢の美学」という選択も有り得ただろうにと。

「政治家は二枚舌といわれるが、医者に見せたら一枚だった——。舌がんなの手術から復帰した際に語った甘利氏だ。そうあってほしい」と「朝日新聞」の「天声人語」でも皮肉られたブーメラン発言です。僕は「人間主義」と「行為主義」の2つの言葉を改めて想起しまし

連載

第13回

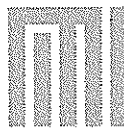
ささやかだけど、  
たしかなこと。

田中康夫

You are the Hope for Tomorrow.

## 経済再生担当大臣「辞任劇」 「行為主義」的に解説する

レイアウト——宗利淳—デザイン



た。この場合の人間主義とは「ヒューマニズム」に非ず。而して行為主義とは望ましき意味合いでの「是々非々」。

阪神・淡路大震災発生4日後に大阪で調達した50ccバイクに跨がって、被災地の避難所やテント村で1年余り、「微力だけど、無力じゃない。」と信じてヴォランティア活動を継続した僕は、その「ささやかだけど、たしかなこと。」を『神戸震災日記』に綴りました。

その中の一文です。「地震直後、『生きていたら声を出せ』と倒壊した文化

住宅の扉を順番にドンドン叩いて、反応のあった部屋から救出していった茶髪少年達の話の聞いた。後になれば誰でも思い付く。だが、その瞬間、その発想を実行に移せた状況判断・認識能力は並の物じゃない。コンビニの前で夜間に何時も溜まっていた彼らは、マスコミのヘリコプターを規制して代わりにヘリコプターで消火する手立ても出来なかった人々よりも遙かに優れている」

激震の後に僕の友人は幼い子供を連れて、半ば放心状態で道路に立ち尽くしていました。暮らしていた中層階建て集合住宅は無事だったものの、関西では文化住宅と呼ばれる向かい側の長屋は倒壊しています。為す術もないと感じていると、通り掛かったヤンキー集団が立ち止まり、端から扉を叩き始めました。

「助けてや」と何番目かの部屋から女性の声が出て、すると友人に「オッチャン、手伝つてくれ」と呼び掛けた彼らは扉に体当たりして、中から独り暮らしの老婆を助け出したのでした。

他の部屋にも生きている人は居たかも知れません。事実、その後にもう一人、救出しています。けれども、全壊に近い長屋の何れの部屋に生存者が居るか、道路側からは判りません。「誰か居るかあ。生きていたら声を出せ!」と叫んで扉を叩く。それは、暗黙知のトリアージと呼ぶべき勤性です。災害や事故の多数の負傷者が担ぎ込まれた医療現場で、症状の重篤度合いに応じて患者の衣服に色

違いのラベルを貼り、治療の優先順位を可視化するトリアージが、そんな学術用語を知る由もない彼らの方が、前例踏襲の形式知に陥り勝ちな我々よりも優れているのです。ならば素直に評価すべき。それが「行為主義」です。

では、「人間主義」とは何か? 有り体に申し上げれば、自家保有家上場企業勤務か妻帯者か<sup>①</sup>で判断する金融機関の審査基準と似ています。或いはサミット<sup>②</sup>主要国首脳会議等の会場周辺に於ける警察の検問基準にも。即ち「世間体」を重んずる心智<sup>③</sup>です。

単車に乗ったロン毛の青年には例外なく運転免許証の提示を求め、背負っていたリュックの中身も確認する一方、スーツ姿の男性が運転する黒塗りはフリーパス。左ハンドルの乗用車の助手席にラテン的相貌の美麗な女性が座っていた場合も同様でしょう。実はトランクには遠路遙々、ナポリから密輸入されたチャカリ拳銃が満載かも知れないのに。



コンビ二の前でウンコ座りをしていた茶髪少年達も、人間主義的には胡散臭いと思われがちです。が、繰り返しますが、行為主義的には文化住宅の一件は褒められこそすれ貶される筋合いの営為ではないのです。

批判を恐れず申し上げれば、神戸市に本拠地を置く広域暴力団が近隣の住民に飲料水や食べ物を提供し、更には乳児の紙おむつもSML3サイズ用意した「マーケティング」の勤性も、人間主義的には問題山積の組織なれど行為主義的には、行政機関が手を拱くのを尻目に天晴れました。

が、「人間主義」で事象を捉える日本の新聞、TVは当初、黙殺。「ジャパニーズ・マフィア大活躍。果たしてナポリで大地震の際にはイタリアの同業者は如何に?」と「コリエーレ・デラ・セラ」紙が掲載するや一転、「イタリア最古の全回紙に扱えば」と各紙は、安全地帯から報ずる展開となりました。今回の告発を『週刊文春』誌上

で敢行した「総務担当番」は、人間主義的にも叩けば埃が出てくるペルソナ・ノン・グラータ<sup>④</sup>好ましからざる人物。が、元検察官の郷原信郎氏が看破した「絵に描いたような幹旋利得をどう説明するのか」の一点に於いて元経済再生担当相も、「李下に冠を正さず」とは真逆の行為主義的な問題を抱えていたのです。

「や党」でも「上党」でもない「ゆ党」ベクトル上の松井一郎おおさか維新の会代表が、「畏に」嵌められようが、貰ってはいけない。問題は金銭授受の有無に集約されている」と1月26日段階で引導を渡し、安倍晋三政権応援団を任ずる花田紀凱「月刊WILL」編集長も「このケースはちよつと言いつれ逃れできないのではないか。辞任するなら早い方が安倍政権のダメージは少ないだろう」と『産経新聞』に寄稿したのも宜なる哉。

とまれ、「おぼしき事言はぬは腹ふくるるわざ」との吉田兼好の至言を引用する迄も無く、「行為主義」に立脚する心智こそ今、雑誌以外の他媒体にも求められています。

たなかやすお……1956年生まれ。作家。2000年から06年まで長野県知事を務める。近著に「33年後のなんとなく、クリスタル」など  
田中康夫ダイレクトメール - tanaka@nippon-dream.com URL - <http://www.nippon-dream.com/>